

第2回小牧市教員の多忙化解消推進委員会会議録

1 開催日時	令和5年12月26日(火) 午前10時00分から
2 開催場所	小牧市役所東庁舎 本会議用控室
3 出席	塚本委員長、富田副委員長、前原委員、上禰委員、●原委員、光部委員、加藤委員、長谷川委員、小澤委員、伊藤委員、堀部委員
4 欠席	なし
5 事務局	■学校教育課 吉田課長(欠席)、采女管理指導主事、高堀指導主事、山下係長 ■教育総務課兼学校教育ICT推進室 丸藤課長
6 傍聴者	0人
7 議題	(1) 小牧市教員の多忙化解消プランの進捗状況について (2) 教職員の働き方改革保護者向け文書について (3) その他

<開会 午前10時00分>

1 開会

(山下係長)

皆様、本日はお忙しい中、ご出席いただきましてありがとうございます。

定刻となりましたので、ただ今より、「第2回小牧市教員の多忙化解消推進委員会」を開会いたします。

私は、司会を務めさせていただきます小牧市教育委員会学校教育課係長の山下です。よろしくお願ひします。

<資料確認>

まず始めに、資料の確認をさせていただきます。

・次第

・小牧市教員の多忙化解消プラン進捗状況

- ・ 市内小中学校在校時間記録
- ・ 超過勤務 4 5 時間超の主な理由
- ・ 教職員の働き方改革保護者向け文書
- ・ 座席表でございます。

不足などがございましたら、お申し出ください。

傍聴について

続きまして会議の公開について、本委員会は、先回確認させていただいた通り、「小牧市審議会等の会議の公開に関する指針」に基づき開催するものでございます。そのため、個人が特定可能な議題などを除き、原則公開とさせていただきます。本日この会議の傍聴者は0人です。

(1) あいさつ

(山下係長)

それでは次第に沿って進めさせていただきます。開会にあたりまして、采女学校教育課管理指導主事よりあいさつを申し上げます。

(采女管理指導主事)

本日は第2回小牧市教員の多忙化解消推進委員会に足をお運びいただきありがとうございます。

さて、小中学校では22日に終業式を迎え、学びの成果やそれぞれ頑張った事柄など、通知表を通して子どもたちや保護者のみなさまと振り返ったところであります。また、市内に目を向けますと、ポインセチアの赤い花が街に華やかな彩りを添えています。昨日のクリスマスをピークに街が鮮やかに彩られていると感じます。クリスマスやサンタクロースの起源につきましては諸説さまざまありますが、世界で何十億人の人々が宗教や文化的な垣根を越えて、「メリークリスマス」の言葉を交わすことで互いの尊厳を認め、互いを理解し、そして家族や大切な人との時間を大切にしようとする、多くの人々の心を温める世界共通の行事は他に多くはないと考えております。

本日、委員のみなさまには、教職員の長時間労働そして多忙化を解消するための取組や手立てにつきまして、第1回に引き続き、さまざまなお意見を頂戴したいと考えております。クリスマスがそうでありますように、子どもたちや教職員の尊厳が確認され、そして、学校に関わる人々の働き方が理解され、それぞれにとって有意な時間を大切にできる、その仕組みをどのように構築するのか、そのヒントをいただけると幸いです。本日の議論が教職員のみならず学校に関わるすべての人にとって心温まる

プレゼントとなることを願ひまして、冒頭の挨拶にかえさせていただきます。委員のみなさま、本日はどうぞよろしくお願いいたします。

(山下係長)

続きまして、塚本委員長、よろしくお願いいたします。

(塚本委員長)

今年はコロナが2類から5類になり、いろいろなことが学校の中で変わってきたと思います。中には戻すとかバージョンアップするとか、そういった言葉を使いながら進めてまいりました。どこの学校も迷いながら進めてきているところが多かったと思います。単に行事をどうするか、授業をどうするかだけでなく、働き方改革を意識しながらの1年であったと思います。各小中学校において、このように取り組んできた、このようにやり方を変えてきたという意見を出していただきながら、また、保護者や地域のみなさまからは、それがどのように映っているのか、働き方改革を進めていく上で今後どのようなことができるのか、さまざま情報交換しながら、市の方向性を決めていくために忌憚ないご意見をいただきたいと思います。

(山下係長)

それでは、先回ご欠席で、本日まで出席いただいている方が1名おみえになります。大変恐縮でございますが、自己紹介をお願いしたいと思います。

(富田委員)

小牧市区長会の富田です。先回は仕事の関係で出席できず失礼いたしました。よろしくお願いいたします。

2 議題

(山下係長)

ここからの取り回しにつきましては、塚本委員長をお願いしたいと思います。委員長よろしくお願いいたします。

(1) 小牧市教員の多忙化解消プランの進捗状況について

(塚本委員長)

それでは、議題(1)小牧市教員の多忙化解消プランの進捗状況について、事務局より説明を求めます。

<事務局より「小牧市教員の多忙化解消プランの進捗状況」の説明>

- ・ 資料1「小牧市教員の多忙化解消プラン進捗状況」
- ・ 資料2「小牧市小中学校在校時間記録」

- ・ 資料3「超過勤務45時間超の主な理由」を基に説明

(塚本委員長)

ただ今、事務局より、「小牧市教員の多忙化解消プラン進捗状況」「小牧市小中学校在校時間記録」「超過勤務45時間超の主な理由」を基に説明がありました。資料を確認していただきながら、今後の取組について、委員のみなさまから忌憚のないご意見をいただきたいと思えます。何か意見はございますか。

(上禰委員)

残念ながら80時間以上超過勤務をされている方がいらっしゃるということですが、こちらは特定の同じ方が長時間勤務されているのかどうか、中身については把握されていますでしょうか。

(高堀指導主事)

市として個々の数字を把握はしておりませんが、やはり同じような方が超過勤務している、長時間働いているという印象はあります。また、その月にどのような行事があるかによって、各行事の中心となる先生方はどうしても準備等に時間が必要となり、超過勤務となることが多いと考えられます。いずれにしましても、校長先生、教頭先生が、校内の先生方の様子や実態を把握され、適切に声かけをしていただいていると思えます。

(上禰委員)

80時間超となっている方に校長先生から直接声かけをすることが大事だと思います。法律的な観点から、80時間オーバーは2カ月続くと過労死認定の原因となります。1カ月目でそういった方にはセーブするように働きかけが大事だと思います。統計的に超過勤務が平均何時間から何時間にかわったかという調査はされているのでしょうか。

(高堀指導主事)

統計的に数字を比較することはやっているが、先生方個々の変化でしょうか。

(上禰委員)

例えば小学校の教員が483人いて、平均40時間ぐらい超過勤務していたのが、今年は35時間になりましたとなるとわかりやすい指標なのかなと思ってお尋ねをしました。

(采女管理指導主事)

資料の数字は小牧市のものですが、全県同じ調査をしております。県教委が行っているものからピックアップして小牧分をまとめてあります。

(上禰委員)

小牧市は教員の多忙化解消プランを設定しているところでありますので、県の調査にとどまらずに、小牧市独自で調査をされてはいかがかなとは思いますが。

(塚本委員長)

令和4年度と5年度を比較して、人数としては把握していますので、それを基にということであります。ほかにありますか。

(加藤委員)

資料3「45時間超の主な理由」については、今年から始まった調査かと思えます。コロナが5月に2類から5類になって、中学校では行事の負担感が3割となっているが、今後もこれは増えていくのではと思えます。昨年と今年でどのくらい中学校の現場の負担感が強くなっているのかお聞かせ願えればと思えます。

(堀部委員)

昨年は文化的行事がなかったのですが、今年は合唱祭が入ってきました。10月、11月は振り返ってみると忙しかったと感じています。資料2の結果を見ると、10月も11月も超過勤務のパーセントが少なくなっています。うまく時間を使うとか、行事を精選してそこまで負担にならない取組ができたかと推測されます。桃陵中では10月に体育大会、11月に文化祭と2ヵ月にわけて行いましたので、一度に二つの行事が進むのではなくて、体育的行事が終わった後に、次は文化的行事と進めてきたので、同じ時期に取組が重ならなかったところがよかったと思えます。

(塚本委員長)

9月、10月のところが昨年に比べて決して増えているわけではなく、むしろ減っているというところからも、各学校の工夫によると思われそうです。

(伊藤委員)

味岡中学校では体育的行事、文化的行事をまとめて行いました。昨年度末に決定し、進めてきた経緯があります。4月から夏休みにかけて計画的に準備を行いました。当然、生徒の意見が必要な部分がありますし、行事の時期にはいい意味で教員はやりがいを感じ、子どもたちもやる気をもって取り組むことができた部分もありました。数字を見る限り、工夫をして超過勤務が少なくなっている部分がありつつ、活動の方向性を工夫できたことはよかったと思えます。味岡中は学年合唱のみを取り組みましたので、合唱祭として来年度以降どう取り組んでいくのかは、本校の課題であると感じています。他校で工夫されている例があれば教えていただきたいと思っています。

(塚本委員長)

光ヶ丘中学校では、時間をかけられるだけかけて、際限なく取り組むのではなく、

この時間の中で最大限の効果をという考えで、計画の段階でしっかり議論してきたと思っています。いくつかの中学校勤務の委員からお話をさせていただきましたが、地域の方から見て、行事への取組に対してご意見がいただければと思います。

(光部委員)

北里中学校ですが、今までは9月に体育祭、11月に文化祭を行っていました。今年は10月後半に学校祭と称して一つにまとめました。ほぼ一日であった体育祭を半日にかえて競技を絞り、平日に行いました。地域の方を招くことも含め準備が大変でしたし、暑さ対策も心配でしたが、今年は10月後半ということで気持ちのよい気候の中で行うことができました。その翌日から2日間に分けて文化祭もありましたが、早くから準備を進めておりましたので、特に問題はなかったようです。生徒たちも次に向けて、特に3年生は受験に向けて切り替えができたと聞いています。合唱については、今までのように制服でステージにあがるのではなく、暑さのことを考えて体操服で行いました。来年度も秋以降に学校祭として進めていくというお話がありました。今年の取組について、地域の方にも好評でした。

(塚本委員長)

コロナが明けて、行事を単純に戻すのではなく工夫しながら進めてきているところで、在校時間記録にもあらわれていると思って聞かせていただきました。

(冨田委員)

各学校で大変な努力をされていると思っています。私は教員として30数年務めました、やればやるほど子どもたちは成就感とか達成感が得られる、また、学年通信を書けば書くだけ、子どもたちは担任の先生の気持ちがわかる、子どもたちの気持ちもわかるということで、教育は時間をかけてじっくりやればやるだけ子どもたちは育っていくと感じています。しかし、一方で多忙化ということで、いろいろな形で先生方が悩まれて、病まれる方もいれば、家庭を省みられない方もいて、昨今の多忙化解消はどのように進めていくとよいかと思っておりました。資料を見させていただいて、また、具体的に各学校の話をうかがって、質を落とさずに子どもたちに達成感や成就感を味わわせるかということは難しいことですが、時間をかければいいものができるという単純な考えではなく、短い時間の中で成果を上げていくかということが資料の数値にあらわれていると感じます。教員の努力に敬意を表したいと思いますが、まだまだ80時間を超える方、100時間を超える方がみえます。どういう先生方なのか、一生懸命やられている先生方なのか、若い先生で経験不足から授業準備等に時間がかかることもあると思います。若い先生方の割合が増えている中で、どう若い先生を育てるのか考えていく時に、資料に出ている数字の中身をみていかなければいけ

ないと思いました。こだわって一生懸命な先生方にこのあたりで調整しようというアドバイスや、若い先生には経験豊かな先生方からアドバイスをして、例えば教材研究の方法や教具教材の共有化なども大事かと思えます。光ヶ丘小の授業を見に行くことがあるのですが、学年で統一した単元や内容に取り組んでいることが多く、よい取組であると感じています。担任間で議論して指導案を相談しながらつくっていく、それぞれに任せるのではなく学年で考えていると思いました。光ヶ丘中の合唱も参観させていただきました。ちょうどインフルエンザが流行っていた時期で指揮者や伴奏者が欠席という学級もありましたが、少ない人数なりに頑張っていこうとする生徒の姿を見ると、学校がそういう子どもたちを育てていると感じました。時間をかけなくとも人間関係をつくっていく中で子どもたちは育っていくと合唱を聴きながら感じました。引き続き学校として努力していくことが、まず在校時間の改善につながっていくと思いました。

(塚本委員長)

行事のことが中心になっていますが、それ以外でも構いません。小学校ですと超過勤務の理由が全体に広がっていると思われませんが、各学校で取り組んでいることはありますか。

(小澤委員)

教材の収集についてですが、タブレットを使うことが多くなっています。1年で終わりでなく来年も同じ資料を使えるよう、ロイロノートの資料箱に保存しています。年度が変わっても、その学年が使えるよう収集しておき、新たなものを一から作るのではなく、資料箱にあるものを参考にすることで業務の改善が進んでいると思えます。

(塚本委員長)

中学校とは違い、小学校は学級担任中心に授業をすることが多いため、その点での工夫ができていると思えます。

(加藤委員)

資料3で小学校と中学校を比べると、学習指導については小学校20.7%中学校3.2%です。中学校は教科担任制で一つの授業を何回か行うのに対して、小学校は学級担任制で毎時間授業を考えなくてははいけません。国では小学校の教科担任制について話がされており、味岡小学校では3年生は教科を入れかえて行っていますが、少しは負担感が減ったのかなと思えます。教材に関して使えるものは年度をまたいで使うという話がありましたが、教科担任制を小学校で取り入れることも一つの方法であると思えます。

(前原委員)

資料3を見て、小学校では児童のために授業づくりや学級づくりに時間をかけ、居心地の良い学級集団をつくることに時間を割いています。児童のために時間を費やすことは教員本来の姿であり、結果マイナス面の生徒指導にかける時間は減っています。中学校は、昔から行事で生徒をまとめあげることがあります。一つのことに向かう姿があると生徒指導にかける時間は減らすことができます。先生方の在校時間についてはきりがないのでどこかで歯止めがいます。授業づくりや学級づくり、行事に時間をかけていることは自然な姿と思いつつも、これをふまえながら勤務のあり方を見直す必要があると思います。超過勤務の理由として会議が0は非常によいことだと感じます。

(● 原委員)

資料2の表の数字を見ると、一般の職場と比較して超過勤務が多いなというのが率直な印象です。小牧原小学校は5、6年生が基本的には教科担任制をとっておりますので、さまざまな時間を短縮できていると思っています。全体では行事がすごく時間がかかっているの、学校間で共有して良い方法をつくっていけるとよいと思います。45時間超えて毎月仕事をしていたら、身体を壊してしまいます。市全体で協力ができればよいと思います。

(富田委員)

校長会や教頭会、教務主任会などで、行事の精選をはじめ各校の取組は共有されたり、議論されたりするなかで、各校が実践しているのではないかと思います。

(塚本委員長)

例えば、市内25校の教務主任や校務主任が集まって情報共有し、うちの学校はこれを取り組もうとかこんな風に変えていけそうかなと取り組んでいる、その結果が出てきていると思います。

(● 原委員)

授業の方法などの共有はしていますでしょうか。

(塚本委員長)

学校ごとでロイロノートの資料箱もありますし、市内全体の使える場所もあります。それが十分に機能しているかという、これから改善も必要かと思いますが、市内全体で共有できるようにICTの活用を進めてきているところです。

(長谷川委員)

ICTを使って、教員、子どもたちの忙しい時間を改善できたらと思っています。例えば、朝の連絡帳を書く時間がノートを書き取る練習になっていることも確かですが、朝の時間的な余裕がなくなっています。ICTを使うと朝の時間に余裕が生まれ

ますが、子どもたちがノートを書く練習の時間を国語の時間で補えるかなど議論をし、さまざまなことを改善できないか考え始めているところです。

(塚本委員長)

効率だけを考えるとICT活用となりますが、どこまで端末を活用するのか、どこまで子どもたちに行わせるのかは悩ましいところです。校内会議についてはICTの活用が進んでおり、例えば職員会議はペーパーレス、事前に資料データを入れておくことで当日の説明や質問、意見を端的にすることができるという工夫がされています。

(富田委員)

超過勤務の理由として、小学校で学習指導が20.7%という数字が資料にあります。豊橋市に学習支援センターがあります。学校ごとにファイルがあり、集約されています。学習発表会の台本や合唱祭の楽譜まで集められています。学習情報センターのような集約する機能をそれぞれの市がもっていたら、こんな教材がある、あるいはこんな授業をやったらおもしろいなど、情報を集約していくことが多忙化解消だけでなく、学習の質をあげることに繋がると思いました。市がセンターをもちながら、それぞれの学校や学級担任、教科担当を支援していくことは大事であると思っています。

(采女管理指導主事)

小牧市では、過去にはWEB教育センターで情報を一つに集めて共有し、各教員の成果や各教育研究会の成果を授業に使うことができました。現在、それを発展的解消という形をとり、資料箱など一つのサーバーの中でデータを共有し活用する仕組みをとっております。そういった仕組みについて、さらに発展させていくために、教育委員会、校長会、教育研究会等、連絡調整を取りながら進めることが、教員の多忙化解消につながると考えております。

(前原委員)

間違いなく若い先生が増えている状況の中で、教員になりたい学生が減ってきている危機的状況があります。教員の数が揃えられない、質が確保できない中で、ますます先輩から後輩へさまざまなノウハウや引き出しを伝えていくことは大事だと思います。超過勤務という点で言うと、家で授業の準備をしている人もいます。一般企業と違い、家に帰っても仕事が切れず、先生たちは小牧の子どもたちのために時間をさいているのではと心配です。

(塚本委員長)

在校時間さえ減ればよいということではないという考えが大切かと思えます。効率よくということと効果を最大限にすること、そのために工夫をしていかなければなら

ないことやさまざま共有していくことが大切であると確認できたように思います。

(富田委員)

業務の持ち帰り時間の調査はありますか。学校からは早く帰るように言われる中で、結局家に持ち帰っているのではないかと思います。そうすると本来的な多忙化解消にはならないと感じます。

(塚本委員長)

ICTを活用し、家からでもリモートで業務はできます。その時間は何時間という把握はしていないと思います。国が行っている勤務実態調査には、それに近い項目があったように思います。

(富田委員)

家に持ち帰って、夜中まで行っているという実態があれば、何らかの方法で解消していかなければならないと思います。

(采女管理指導主事)

基本的に持ち帰りはしないのが前提です。家庭の状況によって、ものを持ち帰るのではなく、家のパソコンからつないで仕事を行うことができる仕組みはあります。教員は子どもがいる時間帯が勤務時間の大半です。子どもと関わるための準備をする時間が勤務に組み込まれているかという点、難しい現状があります。子どもたちに充実した時間を提供するためには、子どもたちのいないところで準備をすることが必要であると感じている先生方が多くみえることも事実です。先ほどお話をさせていただいたように、学校に関わるすべての人々がそれぞれの尊厳と立場を理解し、有意な時間を生み出す方法を学校だけでなく社会全体でコンセンサスを取っていただけると、ありがたいと思います。委員のみなさまからたくさんヒントをいただきましたので、教育委員会事務局としてさまざま相談をさせていただきながら前へ前へと進めていきたいと考えています。

(富田委員)

発想の転換が必要であると思います。授業改革はどんどん進んでいると思います。それと同じく社会や教員の発想の転換も必要かと思います。私の場合は区長会の場で、地域から何でも学校へ相談するという考えではよくないという話はしていきたいと思っています。

(塚本委員長)

管理指導主事からコンセンサスという話がありましたが、こういう会をきっかけに少しずつでも進められるとよいと感じます。

(2) 教職員の働き方改革保護者向け文書について

(塚本委員長)

それでは、教職員の働き方改革保護者向け文書について、事務局より説明を求めます。

<事務局より「教職員の働き方改革保護者向け文書」の説明>

(塚本委員長)

事務局より保護者宛て文書についての説明がありました。先ほど議論したこともふまえて、何か意見はございますか。

(富田委員)

保護者だけではなく、市民向けにも学校はこんなふうに変わってきているんだとアピールできるといいと思います。小牧市ホームページにあげていただき、学校の事情を市民のみなさんにも理解をしていただけるとよいかと思います。

(高堀指導主事)

教育現場がどのようなことを意識しているのか、何を大切にして教育活動に取り組んでいるのか、市民の方にも伝えていかなければいけないと思います。検討していきたいと思います。

(● 原委員)

外国にルーツをもつ子どもたちやその保護者が多くいます。携帯電話からは市外局番がないとかけられないため、市外局番も記載していただきたいと思います。

(上禰委員)

文書内の「生命に関わるような緊急時は」という表現はどのようなのでしょうか。「緊急時の連絡先は」でよいのではないかと感じます。

(塚本委員長)

事務局で検討をお願いします。また、裏面の部活動についてのところで、今回は部活動について話題にはなりませんでしたが、今後の部活動検討委員会で検討された内容につきましては必要に応じて記載をしていくということでご確認いただきたいと思えます。

(3) その他

(塚本委員長)

続きまして、(3) その他につきまして、事務局より何かありますか。

(高堀指導主事)

特にありません。

(塚本委員長)

これで、我々に与えられました議事については終了しました。事務局にお返しします。

(山下係長)

委員の皆様、長時間にわたるご審議ありがとうございました。今後の予定につきましてお伝えします。

(高堀指導主事)

さまざまご意見をいただきましてありがとうございました。今回の議事録につきましては、委員のみなさまに送らせていただき、確認後、ホームページ上にあげていく予定です。また、保護者宛文書につきましては、本日いただいたご意見をもとに、令和6年4月にお示しすることができるように準備をしていきます。

(山下係長)

これをもちまして第2回小牧市教員の多忙化解消推進委員会を閉会いたします。どうもありがとうございました。